

草の根・人間の安全保障無償資金協力  
ザレカ難民キャンプ・ウモジ・カトゥブザ小学校低学年用校舎建設計画 引渡式  
(マラウイ・イエズス会難民サービス)  
2013年8月14日



上：寒川大使(写真中央)による新校舎のテープカット

下：新校舎で着席をする寒川大使(写真中央)と国連難民高等弁務官事務所関係者、マラウイ・イエズス会難民サービス関係者及び式典参加者

2013年8月14日、当国ドーワ県のザレカ難民キャンプにおいて、寒川富士夫マラウイ特命全権大使、モピワ内務省ナショナル・コーディネーター、クチオ UNCHR マラウイ事務所長出席の下、新設校舎の引渡式が行われました。

ウモジ・カトゥブザ小学校は、ザレカ難民キャンプにあり、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) の支援のもとマラウイ・イエズス会難民サービス (JRS) が管理をし強制的に母国から退去させられた子供たちに教育を提供する他、カウンセリングを提供しています。難民キャンプにやってくる難民の数は毎年増え続けており、学校には増え続ける子供たちに対して十分なスペースがないことが課題となっていました。

本案件は、日本政府が JRS に対し草の根・人間の安全保障無償資金協力の下、89, 176米ドル (約891万円) を供与したものです。これにより、校舎3棟 (6教室) と児童用机・椅子、生徒用トイレ2棟、教師用トイレ1棟が建設されました。この建設により、1クラスの児童数は現在の100人から60人に減少させ、過密な教室環境を改善することができます。強制的に母国から退去させられた子供たちに良質な教育にアクセスすることが可能となります。